

## 環境大気常時監視マニュアル第3作業部会改訂の論点

### 第4章 大気汚染常時監視システム

1. 「環境大気常時監視マニュアル改訂の方向性」に基づき改訂した部分
  - (1) 「1.5 小規模テレメータシステム」については、近年、大規模なシステムとしても普及しているため、「近年の常時監視システムの動向及び今後の展望」に名称を変更し、内容を充実
  - (2) 「2.2 プログラム」:
    - ・ 著作権に関する記載の追加と、技術進化による内容を修正
    - ・ 1時間値のデータ提供について、国立環境研究所のフォーマットを事例として紹介（詳細記述が改訂案「第6章」にあることを記載）
  - (3) データのバックアップに関する記述を整理。（「4.6 ファイルの保護対策」「4.7 ファイルの復元対策」を「3.2 安全対策」の参考資料に移行。「6.3 更新に当たっての留意事項(1)バックアップ対策」を削除）
  - (4) 古くなった記述を現状に合わせて改訂
    - ・ 緊急時の通報手段としてインターネット、電子メールなどの具体例を記載
    - ・ 「1.ハードウェア」で、LAN等のネットワークが主流になりつつあることを記載
    - ・ 市販のデータ解析用アプリケーションソフトが利用可能となったことを記載（「1.2 データ処理」「2.ソフトウェア」）
    - ・ 大規模な施設を想定した中央監視局の災害対策に関する記述を削除（「3.2 安全対策」）
    - ・ 現在のコンピュータ操作に不要となった記述を削除（「4.1 オペレータ制御言語」～「4.5 利用者管理」）
    - ・ 「5.5 伝送精度の確認」「5.6 伝送路の障害対応」を削除
2. 作業部会で特に加筆修正した部分
  - (1) 「1.1 データ伝送系」
    - ・ 電波障害・データ再収集機能の対策について記載
    - ・ 「(5)テレメータ子局装置」「(6)テレメータ親局装置」「(7)操作卓」を「(2)テレメータ」に統合
  - (2) 「1.5 小規模テレメータシステム」から変更となった「近年の常時監視システムの動向及び今後の展望」に外部接続時のセキュリティー対策に関する記載を追加
  - (3) 「3.1 設置条件」「3.2 安全対策」: 局舎構造に関する記述を実状に合わせて簡略化
  - (4) 「5.3 機器の修理」: 数年単位での交換消耗品に対する注意点を記載
  - (5) 「6.1 システムの増設改造」: 「システムの新設」とし、システムの新設を行う場合の注意点を記載
  - (6) 「6.3 更新に当たっての留意事項」: データロガーの有用性を記載